

事業報告

平成 28 年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

平成 28 年度 緑区生活支援センター事業報告書

各区に総合相談窓口機能を持つ基幹相談支援センターが開設されるなど、今年度は横浜市の相談支援体制に変化が起きた年度となりました。その動きの中で、改めて「緑区の相談支援体制のより良い仕組み作り」について、緑区定例カンファ等の会議を通して話し合うことが出来ました。区福祉保健センター、基幹相談支援センターとの両輪関係における連携強化の必要性はもちろんのこと、支援センターの運営や支援のあり方を振り返った中で、支援センターから地域へ出向いてのアウトリーチ支援や、地域における支援者のネットワーク作りに更に力を入れました。また、「指定相談支援事業」「地域活動支援センター事業」「地域移行・地域定着支援事業」「自立生活アシスタント事業」の 4 事業についても、各事業を連動させながらも特徴を生かし、それぞれの事業を丁寧に実施し、拡充させる事が出来ました。当事者活動の推進、長期入院患者支援（宿泊同行支援）、家族会へのバックアップ、支援者支援に関しては、例年に引き続き今年度もさらに意欲的に取り組むことが出来ました。

今後も地域や各事業所との連携の強化に努め、当事者のみならず、ご家族や地域住民、地域の支援者等の幅広いニーズに柔軟に対応することが出来る様、また地域連携の要として様々な機能を発揮出来るよう努めていきます。

【利 用 実 績】

※ 統計については【資料 1】参照

【事業実施内容】

1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、単にサービス利用を目的とした関わりではなく、地域においてご本人の希望する生活を実現するための総合的な支援を継続して実施していくことを目的とします。計画相談支援におけるモニタリングの重要性を意識し、可能な限り対象者の生活の場に出向いた支援を実施しました。

また、支援の質を担保するためにも、区自立支援協議会や横浜市、各団体主催の研修等の参加を推奨し相談支援専門員の知識や支援スキルの向上を図ると共に、対象者の支援方針や支援計画の中身についても職員間で共有し意見交換することや、職場内においてスーパーバイズの間を積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

(28 年度実施実績…計画相談支援 50 件、相談中のケース 7 件、地域移行支援 2 件)

2. 地域活動支援センター事業

(1) 相談支援

ご本人のニーズに基づき、「ご本人が出来る事」「支援センターで出来る事」「必要な支援」等々を十分検討した上で適切な社会資源に繋げる事や、地域や関係機関のネットワークを駆使した中で支援していくことの重要性を職員全員で常に共有しながら、個別の相談支援を実施しました。

＊基本相談…その先の密な個別支援に繋がる大切な機能として意識し、フロアー対応等実施

＊その他の相談支援…出張個別相談会（会場：地域ケアプラザ）、嘱託医相談、心理士相談会を実施

(2) 訪問・同行

センター利用者への定期的な訪問に加え、不穏時の訪問や緊急時の通院同行、緊急入院対応、また個別の状況等によりセンターに来ることが出来なくなったケースや、外出出来なくなった状況等々、日々の関わりの中から情報を察知し、必要に応じたタイムリーな訪問等の積極的な支援を実施しました。

さらに地域移行・地域定着支援事業と自立生活アシスタント事業との連動により、入院中から地域移行後の地域生活安定までの一連の流れの中で積極的に医療機関にも出向きました。

(3) 家族支援

緑区家族会、役員会の会場提供と定例会へのオブザーバー参加等を実施し、家族会の皆様との結びつきを更に強めることが出来ました。またご家族からのご希望を受け、支援センターフロアーにて「精神科の薬について」の勉強会を企画し、利用者にも参加して頂けるプログラムとして開催しました。発症後間もないご家族に向けては、区福祉保健センターと共催で「家族教室」を開催し、情報提供と共に他のご家族との交流の機会を設けました。

＊みどり会定例会・役員会 各2か月に1回開催

＊みどり会新年会 センター昼食会と同時開催し、ご家族11名の参加を含む合計24名参加

＊家族教室 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）

内容：講義による情報提供（統合失調症、制度、資源）、グループワーク、全2回実施

参加：5家族

＊勉強会 「精神科の薬について」 講師：支援センター嘱託医 松村雄彦 Dr

参加者24名（内ご家族11名）

(4) 当事者活動支援

緑区独自の当事者自主活動の場である「自分の悩みを語りましょうの会（通称：JNK）」が発足3年目となり定例開催しています。司会進行や「参加者の約束事」も皆で話し合って決めるなど、当事者の方々による積極的な自主活動の場となっており、支援センターでは後方支援に徹しています。

＊開催：毎月1回第3日曜日開催、今年度全12回開催

＊参加：当事者のべ132名参加

＊内容：自分の困りごと等を自由に発言。それに対して参加者がアドバイスや思った事を伝える

また地域の各関係機関等での「普及啓発講座」や「研修会」実施の際、「当事者の体験談発表」の機会を積極的に作りました。講座参加者にとっては当事者からの体験談は最も伝わりやすく心に響くものであり、また発表した当事者にとっては、「自信に繋がる良い機会になった」との感想を頂きました。

横浜市生活支援センター連絡会においては今年度より「ピアを考えるワーキンググループ」を立ち上げ、生活支援センターにおけるピア活動を考える場として積極的に参加しました。

(5) 地域交流・地域連携

緑区自立支援協議会の事務局として、協議会の企画運営を実施すると共に、「ネットワーク部会」を担当、開催し（年3回）、緑区内の各事業所間の有機的なネットワーク作りと地域連携を目的に、各事業所で抱える困りごとを共有協議し、地域課題の抽出、検討を重ね、横浜市自立支援協議会へ課題提出すべく準備を行いました。

また、合築施設の特性を活かし3障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）の実施や施設開放を通して、他障害関係機関や地域の色々な施設等との共催により地域市民との交流を図りました。

町内会主催の防災訓練や清掃への参加や、社会福祉協議会主催の災害時想定連絡用回覧板の取組み等にも積極的に参加し、地域の中での顔の見える関係作りを心掛けています。

(6) 自主事業

※詳細については【資料3】参照

行事、プログラムの実施について業務のあり方の見直しと共に精査を重ねました。その結果、緑区の地域性を鑑みたプログラム（緑菜園、蛍鑑賞会）や、地域全体で実施する行事（納涼会、クリスマス会）やバスハイクなど、緑区の特性を活かした中で支援に繋がる様な自主事業を積極的に実施しました。

(7) 情報提供

法制度の情報や必要な種々の社会資源の情報（GH 募集情報、就労関係、企画イベント）等、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やご家族、関係機関等に提供しました。より見やすくまた目につきやすくするために館内整備の工夫を心がけました。

さらに、情報提供に基づき見学等希望された利用者に向けては、積極的に同行支援を実施しました。

(8) その他

利用者アンケート、メンバーミーティング、意見箱及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示や個別の対応、説明等により利用者に向けて回答し内容等を周知しました。

3. 地域移行・地域定着支援事業

※統計については【資料2】参照

「退院後はどんな生活を送りたいか」「どんな生活を送れるか」という一人ひとりの希望や状況に合わせて、医療機関と連携を図りながらの個別支援を実施しました。また、今年度はこれまで連携が取れていた医療機関だけでなく、市外病院や協働活動が行えていない医療機関に対しても、徐々に活動を広げることが出来ました。さらに医療機関だけでなく基幹相談支援センターとの連携にも力を入れ、受け入れ側となる地域に対して「地域づくり」のための啓発活動を実施しました（緑区、都筑区）。

また当センターで昨年度まで実施していた「宿泊支援事業」は、事業が終了しましたが、長期入院中の患者にとって退院後の地域生活を具体的にイメージ出来る貴重な生活経験の場面であるため「宿泊同行支援」として実施を継続しています。

《宿泊同行支援》

隣接区の他法人と当法人紫雲会とで協定を締結した形で事業を実施しています。他法人のグループホームの空き部屋を利用し、地域生活体験の機会提供として職員が同行して宿泊体験を支援しました。

- ・実施2回（入院期間2年間の方、目的：退院後の地域生活イメージとグループホームの体験）

《主な活動》

①「地域づくり」を目的とした基幹相談支援センターとの連携（緑区・都筑区＝サポート担当区）

- ・緑区、都筑区自立支援協議会にて「地域移行を考える」研修会実施
- ・地域移行や退サポ事業を知ってもらうための打合せ実施（緑区3回、都筑区2回）

②医療機関との協働活動・啓発活動

- ・大和病院（市外）にて啓発活動（参加：院長、看護職員等25名）
- ・保土ヶ谷病院にて啓発活動（参加：相談室Wr4名）
- ・神奈川県精神医療センター地域医療連携室との協働活動（参加：医師、看護、Wr、OT等50名）
- ・あさひの丘病院内退院促進プログラム「未来クラブ」協働活動（対象者：患者①19名②16名）
- ・あさひの丘病院にて退院生活を考える会「タイサポ」実施（対象者：患者①17名②17名③24名）
- ・キャラバン隊かめ 当事者活動実施：11回 計138名参加、検討会議1回実施
- ・あさひの丘病院にて啓発活動（参加：医師、看護、Wr等20名）

③その他

- ❖ 厚労省主催「精神障害者の地域移行担当者会議」に横浜市選出委員として参画（27.28年度）
- ❖ 退サポ「研修部会」幹事センターとして研修会、勉強会を実施
 - ・研修会：11/29 実施 90名参加
 - ・勉強会：8月実施 40名参加 2月実施 62名参加
- ❖ 横浜市精神障害者地域生活支援連合会主催のシンポジウム「地域の相談のあり方を考えよう」にて「退院に関わる支援～退サポ事業を通して」の発表実施

4. 自立生活アシスタント事業

※統計については【資料2】参照

単身で地域生活を送っている精神障害者が安心して、安全に暮らせるよう、対象者の課題やニーズに個別対応したきめの細かい支援を実施しました。今年度は体制を大きく変更して、事業の更なる推進に力を入れました。事業利用にあたっては区福祉保健センター障害支援担当のみならず、医療機関、グループホーム、地域活動支援センターなど多様な機関から相談を受けるようになり、支援件数も増加し、今年度年間では相談中の方も含め48名の方の支援を実施しました。

登録前に実際に対象者とお会いして課題や希望をきちんと伺うことに力を入れ、対象者と向き合い話をしながら整理していくことで課題を明確にし、基本相談、地域移行、計画相談などを同時に実施している支援センターの強みを活かし、事業の利用についての精査も行う等、広い視点から対象者の支援について検討しました。また、対象者の支援を進めていく過程においては、他職種ともネットワークを構築し、適宜ケア会議を開催しながら、より広い視点に立った途切れのない支援を続けていく仕組み作りを心掛けました。

【普及・啓発活動】

精神の障害に対する偏見や差別はまだまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えています。

《講習会・研修会・相談会の開催》

①「家族教室」（区福祉保健センターと協働開催）

対象：発症後間もなく（5年未満）まだ家族会に所属していない精神障害者の家族

内容：講座形式による情報提供と、家族同士の交流を目的としたグループワーク

統合失調症について、制度、リハビリ、家族対応、社会資源、当事者発表

＊全2回、5家族参加

②「緑区内民生児童委員の地区別見学会」（前年度と引き続きでの開催）

対象：東本郷地区の会長・委員の皆様、13名参加

内容：生活支援センターの紹介、精神障害とその対応について、質疑応答

③「精神科医療機関における講座、当事者活動との協働」 ※詳細は【資料2】参照

地域移行地域定着支援事業と絡めて、医療機関や入院中の患者への普及啓発活動実施

④「こころの病を知る講座」 2回実施

＊対象：民生委員14名 内容：意見交換会、「心の病とその対応について」講義

＊対象：地域市民、民生委員、区福祉保健センター職員 グループホーム職員 参加18名

内容：当事者発表「ご本人の思いから知るこころの病」「社会資源の紹介」

⑤「その他」

＊地域で開催の定例会議にオブザーバー参加（「第一団地交流会」2ヶ月毎）

参加者；町内会役員、民生委員、ケアプラザ職員、区福祉保健センター高齢担当等

【その他】

1. 地域ネットワークの構築と支援者支援

利用者へのより良い支援実施の為、区内各事業所の職員同士が職場の枠を超えた有機的な繋がりを持つことを目的に、支援者同士、事業所間のネットワーク作りを意識的に行いました。

＊自立支援協議会「ネットワーク部会」の企画運営と外部講師による研修（全3回）の企画・実施

①自立支援協議会の活用 ②課題解決に具体的に取り組む ③課題解決に取り組む力を考える

＊各事業所の抱える支援困難事例や事業所運営の困りごと等を通して、事業所間の地域連携の構築を目的に情報共有の場を持ち、またその課題抽出と解決について話し合い実施

＊基幹相談支援センターと連携し、重複障害の利用者支援や多問題を抱える家族支援を実施

2. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、支援センター内部での職員研修会等を実施し、人材育成の一環として職員の資質と知識の向上に努めました。また、研修会での講師やインストラクター等については人材育成の視点から、依頼を頂いた際には積極的に参加しました。

《支援センターで実施の研修、勉強会等》

＊「個人情報保護法、障がい者権利擁護、障害者虐待防止法」職員内部研修会実施

＊支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等においての「事例検討」実施

＊自立支援協議会ネットワーク部会において研修会3回実施（前述の通り）

＊「精神科で処方される薬の話」家族会との協働開催

3. 実習生の受入れ

将来の福祉の現場を担う新人育成の一環として、実習希望の学生については積極的に受け入れを実施しました。精神保健福祉士の資格修得の為の実習が大半ですが、その他医療機関の看護実習、緑区内中学校のボランティア実習、横浜市新採用職員実習等の受入れを実施しました。また、実習生対応には、研修を受講し実習生受け入れの資格を所持した職員が業務担当をしています。

（28年度 受入れ実習生 30名 のべ実習日数 79日）

4. 衛生管理

年2回、清掃業者による館内全体の清掃、及び月4回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。またノロウィルス等の対策として受付入口カウンターに手指の消毒液を設置、毎夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル等の消毒、また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

5. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時、緊急時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「特別避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する等、避難所としての整備を固めました。

また合築の地域活動ホームとは「防災委員会」や年 3 回の「合同避難訓練」の実施を行い、災害時や不穩者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。利用者が安心して支援センターを利用して頂けるよう、合築の建物全体の問題として安全管理・災害対策に取り組みました。

また「中山町町内会の防災訓練」に参加し、地域防災拠点である中山小学校までの避難経路の確認を行いました。さらに緑区社協役員会にも参加し、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを実施することにより、地域の横の繋がり顔の見える関係作りを実感しました。万一に備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化に繋がりました。

【資料 1】

1. 平成 28 年度 緑区生活支援センター 年間運営状況

※ () 内…昨年度実績

開所日数		353 日	
登録者数	28 年度登録	73 (79) 名	
	全登録者数	1137 (1064) 名	
利用者数	本人	5648 (6169) 名	16.0 (17.4) 名/日
	家族	154 (164) 名	0.4 (0.4) 名/日
	ボランティア・関係機関	321 (384) 名	0.9 (1.0) 名/日
相談支援	電話相談	9034 (9375) 件	25.6 (26.5) 件/日
	面接相談	1045 (1186) 件	3.0 (3.4) 件/日
	訪問・同行	522 (436) 件	1.5 (1.2) 件/日
	非構造面接	655 (788) 件	1.9 (2.2) 件/日
	嘱託医相談 43 回実施	35 (58) 件	0.8 (1.3) 件/回
	心理士相談 49 回実施	73 (78) 件	1.5 (1.7) 件/回
各種サービス	夕食サービス・週 3 回提供	2011 (2288) 名	13.9 (15.1) 名/日
	入浴サービス	241 (334) 名	20 (27.8) 名/月
	洗濯サービス	109 (125) 名	9.1 (10.4) 名/月
	インターネットサービス	164 (136) 名	0.5 (0.4) 名/日

2. 地域移行・地域定着支援事業 実績

28 年度 個別支援者数 （退サポ：15 名 地域移行支援：2 名）						
退サポ	支援継続	7 名	退院者	3 名	アパート設定	0 名
	退院後フォロー	3 名			自宅	2 名
	相談中	3 名			GH	1 名
	支援終了	2 名			生活訓練施設	0 名
	(転院のため 1 名 / 計画相談へ移行 1 名)					
地域移行支援	支援継続	2 名（うち、退サポからの移行 1 名）				

28年度 啓発活動 (30回)		
病院	患者対象：15回	院内職員対象：7回
関係機関・地域	基幹相談支援センター：7回	地域：1回

《普及・啓発活動》

- * 基幹相談支援センターへの事業説明や研修実施 (緑4回) (都筑3回)
- * 大和病院「事業説明」院内職員対象 (年1回)
- * 保土ヶ谷病院「事業説明」院内職員対象 (年1回)
- * 精神医療センター「事業説明と支援報告」院内職員対象 (年1回)
- * あさひの丘病院 院内プログラム「未来クラブ」患者対象 (年2回)
- * あさひの丘病院「タイサポ」患者対象 (年3回)
- * あさひの丘病院 当事者協働活動「キャラバン隊かめ」患者対象 (毎月1回)
- * 市精連シンポジウム「事業説明など」当事者、家族、支援者など対象 (年1回)
- * 退サポ「退院後生活環境相談員・地域援助事業所研修会」職員対象 (年1回)
- * 退サポ「勉強会」職員対象 (年2回)

3. 自立生活アシスタント事業 年間実績

※ () 内…昨年度実績

28年度支援者数		登録者	27 (21) 名	相談中	21 (10) 名	
支援内容	面接	179 (162) 回	心理情緒	1036 (1382) 回	衣食住	746 (720) 回
	訪問	382 (177) 回	医療健康	929 (664) 回	対人	651 (620) 回
	同行	113 (36) 回	消費生活	535 (256) 回	就労	238 (200) 回
	ケア会議	73 (29) 回	関係機関との連携	665 (334) 回	余暇	128 (5) 回

平成 28 年度 緑区生活支援センター自主事業報告

【主な定例プログラム】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1 回	昼食会	昼食を囲んでの会食	食堂娯楽室	24
4 回	スポーツ根性クラブ	ショートテニス	緑スポーツセンター	33
8 回	緑菜園	季節の野菜の植え付けや収穫	市民菜園	25
1 回	卓球大会	卓球大会	食堂娯楽室	11
2 回	ビーズサークル	ビーズの自主製作	食堂娯楽室	15
12 回	JNK（自分の悩みを 語りましょうの会）	当事者同士の支え合いの会	食堂娯楽室	132
4 回	メンバーミーティング	メンバー同士の交流会、話し合い	食堂娯楽室	30
3 回	女子会	女性利用者の交流会＆茶話会	食堂娯楽室	17
4 回	たこ焼会	たこ焼きを焼きながら交流	食堂娯楽室	57
43 回	医師相談会	精神科医師による相談会	相談室	35
49 回	心理士相談会	心理士による相談会	相談室	73

【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
6 月	春のバスハイク	観光（区福合同）	深大寺、国立天文台	28
6 月	蛍観賞会	夜間に蛍観賞	四季の森公園	16
8 月	緑区合同納涼会	流しそうめん・バーベキュー	食堂娯楽室	48
10 月	秋のバスハイク	バーベキュー	なみのこ村	32
11 月	クリスマス会準備会	クリスマス会の景品等の準備	センター	22
12 月	緑区合同クリスマス会	クリスマス会	食堂娯楽室	92
1 月	初詣、かるた大会	神社へ初詣、かるた大会	杉山神社	10

【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1 回	みどりコスモスフェスタ	3 障害合同の地域祭り＆施設開放	支援センター・地活全館	約 600
3 回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練・消火器訓練	センター・地活全館	18
16 回	事業所合同ソフトボール	ピネル友の会合同の練習＆試合	白山ハイテクパーク	121
1 回	フレンドシップ杯	事業所合同ソフトボール大会	保土ヶ谷公園少年野球場	31
1 回	ソフトボールミーティング	練習の進め方について	センター	15

【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
4 回	出張個別相談会	地域の方に向けての相談会	東本郷ケアプラザ	4
2 回	家族教室（初発の家族対象）	医師による講義・グループワーク	区役所、センター	42
1 回	こころの病を知る講座	当事者体験発表、制度資源	東本郷地域ケアプラザ	18
2 回	稲穂の会茶話会	ボランティアグループと当事者交流会	ハーモニーみどり	23
1 回	精神科の薬の話を聞こう	嘱託医による薬の話	センター	24